

エクストリームシリーズ 2015 那珂川大会

那珂川大会 優勝チームコメント

スパモニ探検隊 新 隆徳さん、山本 淳史さん、鈴木 篤さん

新隆徳

アドベンチャーレースには興味はあったものの、なかなかきっかけがなく参加する機会がなかったのですが、16年ぶりに再開した篤に誘われての初参加となりました。山本君の若さと篤の昔と変わらないガッツについて行くのが大変でしたが、楽しいレースでした。特にナビゲーションが難しいコースが組まれていてとても楽しかったです。また、那珂川周辺の環境のよさ、地元の人々の温かい歓待も最高でした。また、参加します。

山本淳史

私は現在大学院2年生で、大学に入った時からオリエンテーリングをして6年目になります。学部の4年間とはかくオリエンテーリングで勝つことを目標に打ち込みましたが、学部を卒業した時、もっと幅広くアウトドアスポーツがしたいと思ってこの世界に飛び込んでみました。そんな私の目線からアドベンチャーレースについて感じたことを、少々的外れな内容かもしれませんが綴らせていただきます。

今まで3回のアドベンチャーレースに出て、特に今回は夜皆さんとお話することが出来て、アドベンチャーレースとオリエンテーリングには根本的な考え方に違いがあると感じました。一言で言うと、オリエンテーリングは「競技」であるのに対してアドベンチャーレースは「冒険」です。オリエンテーリングは「競技」であるがゆえに、不確定要素を可能な限り排除し、運の要素をなくすことで実力が結果に反映されるように努めます。しかし「冒険」であるアドベンチャーレースにとって不確定要素はむしろ必要で、その不確定要素に知識と経験とチームワークでどのように対処するかということまで含めて「冒険」なのでしょう。だから敢えて住民に聞かないとわからないようなクイズを出したり、独創的なチームチャレンジを課したりします。地図もオリエンティアから見たらビックリするくらい精度が悪く、これで全く迷わずにベストルートでゴールするには実力だけではなく運も必要だと感じる程ですが、むしろそれで良いのでしょう。そこでクイズがわからない時、チームチャレンジが上手くいかない時、現在位置がわからなくなった時のチームとしての課題解決もまた冒険の内なのです。

初めはこのようなアドベンチャーレースの考え方に戸惑いました。行ってみたらヤブがひどくて10分ロスをしたとか、たまたま道があったから速く進めたとか、虫が見つけれなくてなかなかスタート出来なかったとか、そんなことで勝った負けたと言っていて楽しいのかと。でも、それで良いのだと気づきました。冒険とはチームで課題を解決するそのプロセスを楽しむことが第一であって、もちろん勝敗も目標でそのために頑張りますが、それは結果でしかないのです。もしレースとかではなく本当に自然を相手にしたときに戦えるのは、作られた競技空間で育ったオリエンティアよりも、山の総合力を持ったアドベンチャーレーサーだと思います。

去年、オリエンテーリング一筋であった私はアドベンチャーレースの世界に飛び込んで、右も左もわからないところを鈴木さんのような何でもできるすごい方に拾っていただき、色々な世界を見せてもらいました。アウトドアってこんなに色々なことが出来るのかと。今ではアドベンチャーレース大好きですし、これからはアドベンチャーレースにすら留まらず、もっと色々なことに挑戦してみたいと思います。それと海外のアドベンチャーレースにはいつか出てみたいです。夜に話を聞いていて夢が1つ出来ました。自分のような若造が言うのも場違いかも知れませんが、アドベンチャーレーサーの皆さんも是非、色々な世界を「冒険」してみてください。手始めにオリエンテーリングでも。アドベンチャーレースとは違った面白さがありますし、何より地図が読めるようになります。ちなみに私の母校東大OLKの運営するオリエンテーリングの大会が6月7日にあります。

<http://comp.olk.jp/37/bulletin.html>

今年はOMMチャレンジクラスという、OMMレベルの難易度で10km程のコースでペアでも個人でも参加できるクラスがあるそうです。ある程度地図が読めて長い距離が走れるアドベンチャーレーサーには最適なコースだと思います。異なる種目の人が積極的に交流して刺激を与え合うことで、アドベンチャーレース界だけでなくアウトドア界全体が盛り上がっていくと思います。何より絶対そっちの方が楽しいです。

鈴木篤

数あるスポーツの中でもアドベンチャーレースは特に奥が深い競技だと思っています。

自然を舞台にしている上に、マルチ種目で、さらに読図も夜間行動も必要で、おまけに男女混成可能な団体競技ときているのだから、その難しさは自ずと知れるでしょう。

要は、我々アドベンチャーレーサーは、とんでもないことをやっているのです。

私が幸いだっただのは、対象がヒマラヤを含むアルパインクライマーであったのと、さらに(ジュニアですが)世界選手権にも出るオリエンティアでもあったことで、自然の力も、夜間行動も、読図も知っていたことです。

なので、「手っ取り早くアドベンチャーレースで強くなりたい」という人にはオリエンテーリングをお勧めします。大会によっては初心者講習もあり、何より、まったくと言ってよいほどウソをつかない、専用に作られた地図の精度に驚き、地図読みが楽しくなること請け合いです(国土地理院の2万5千分の1も世界に冠たるものですが、オリエンテーリングの地図はそれを元にさらに細かく作り直されています)。大会情報は下記サイトから得られます。マイナー競技故に初心者にはとても優しくしてくれますし、参加費も驚くほど安いので、是非ご参加下さい。

<http://www.orienteering.com/index-j.htm>

実際、今回のメンバーは全員がオリエンティアでした。また、プロアドベンチャーレースチーム EASTWIND の田中正人さんは現在も多摩 OL (ドイツ語で Orientierungslauf=方向を定めて走る、を略してこう呼びます。決してオフィスレディーの集まりではありません OL 界では古典的なギャグ) という地域クラブに所属するオリエンティアです。

一方、別の例もあります。

スパモニ探検隊では、アドベンチャーレースから入って、今ではアルプスの雪山に登るようになったメンバーもいます。山ヤがアドベンチャーレースやオリエンテーリングの技術を持っていれば、遭難のほとんどはなくなるでしょう。

また、オリエンテーリングの先輩で、MTB にはまって MTB でのオリエンテーリング(MTBO)日本代表になった人もいますし、オフロードの自転車競技シクロクロスの女性日本代表は元 EASTWIND のメンバーです。

異なる種目であっても、人材の交流を行って、相互に盛り上げていく。それは様々な出会いと化学反応を生み出す、とても面白いことだと思います。

という訳で、そもそもこんなレースに挑戦してしまう、意欲あるレーサーの皆さん、是非、オリエンテーリングにも挑戦されてみて下さい。